

様式第 3 号(第 9 条関係)

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附 属 機 関 等 の 名 称	令和 3 年度 第 1 回みよし市教育振興基本計画推進委員会		
開 催 日 時	令和 3 年 6 月 2 9 日（火曜日） 午前 9 から午前 1 1 時 4 0 分まで		
開 催 場 所	みよし市役所 3 階 研修室 1 ・ 2 ・ 3		
出 席 者	委 員 長：大村 恵 副委員長：吉澤 通記 委 員：杉浦美智子 大地由美子 古井 成之 吉川 直希 丹羽 浩介 辻 有記衣 安森 洋平 熊谷 彩 須波 理沙 富樫佐智子 柴田 雅文 内田 弥生 近藤 憲司 事 務 局：今瀬教育長 深津教育部長 新美教育部参事 岡田教育部次長兼教育行政課長 池野子育て支援課長 橋本生涯学習推進課長 江上学校教育課長 甲村スポーツ課長 村山資料館長 水野給食センター所長 本松子育て支援課主幹 瀧元協働推進課副主幹 鈴木学校教育課主幹 狩野学校教育課主幹 菅田学校教育課主幹 深谷学校教育課主幹 大成学校教育課主幹 金丸学校教育課副主幹 山内学校教育課地域連携担当 (計 3 4 名)		
次 回 開 催 予 定 日	令和 4 年 2 月		
問 合 せ 先	教育部 学校教育課 電話：0 5 6 1－3 2－8 0 2 6 ファックス：0 5 6 1－3 4－4 3 7 9 メール：gakko@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下 欄 に 掲 載 す る も の	・議事録全文 ・議事録要約	要約した理由	
審議経過			
江上学校教育課長	本日は御多用の中、御出席いただきありがとうございます。 定刻前ではありますが、本日配付した資料を確認させていただきます。要項、資料 1 から資料 5、座席表、封筒の中にある委嘱状の 8 点です。過不足等ございませんでしょうか。 不備等ございましたら、会議の途中でも事務局へお知らせくださいますようお願いいたします。資料 1 から 4 につきましては、事前に送付させていただきましたが、一部文字が枠内に入り		

	きらずに切れているなどの不備がございましたので、委員の皆様には、再度資料を配付させていただきました。事前資料に不備がありましたこととお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。本日配付させていただいた資料の内容につきましては、事前に送付した資料と変更がないことを申し添えさせていただきます。本日御持参いただいた資料につきましては、必要のない方のものは回収させていただきましたが、まだお持ちのようであれば、会の終了後に回収をさせていただきます。 なお、本日は、本推進委員会の委員であるみよし市文化財保護委員の鈴木睦子様から欠席の御連絡をいただいております。 それでは、ただ今から令和3年度第1回みよし市教育振興基本計画推進委員会を始めさせていただきます。 初めに、礼の交換をします。 一同 礼 ありがとうございます。御着席ください。
江上学校教育課長	続いて、本日御参集の皆様へ「みよし市教育振興基本計画推進委員」の委嘱状を交付させていただきます。委員を代表して愛知教育大学の大村恵様、御起立をお願いします。 教育長から委嘱状を手渡し 大変恐縮ではございますが、時間の都合により、他の委員の皆様については、机上の封筒に委嘱状を入れさせていただきました。お名前を御確認ください。
江上学校教育課長 教育長	続きまして、主催者を代表して、みよし市教育委員会教育長が御挨拶申し上げます。 教育長 挨拶
江上学校教育課長 近藤委員 江上学校教育課長 江上学校教育課長	次に、本委員会の委員長・副委員長を決めたいと思います。委員長・副委員長の決定について、何か案のある方はいらっしゃいますか。 平成26年から長年にわたり、本委員会の委員長をお務めいただいている愛知教育大学教育ガバナンス講座教授の大村恵先生に委員長を、小中学校校長会会長である三好中学校長の吉澤通記先生に副委員長をお願いすることを提案します。 ただ今、近藤様より提案がありましたが、いかがでしょうか。御賛同いただける方は、挙手をお願いいたします。 挙手全員 ありがとうございます。それでは、挙手全員により、委員長を愛知教育大学の大村恵先生に、副委員長を小中学校校

大村委員長	長会の会長である吉澤通記先生にお願いします。大村先生、委員長の席に御移動ください。 大村先生、一言御挨拶をお願いいたします。 大村委員長 挨拶
大村委員長	最初の会議ということもありますので、自己紹介をお願いしたいと思います。要項の１頁目に、委員の名簿がございますので、この順番でお願いします。 委員自己紹介
大村委員長	事務局の皆様につきましては、座席表にて御確認いただきますようお願いいたします。
大村委員長	それでは、要項の次第に沿って進めていきます。今日は第１回の集まりですので、本委員会の趣旨と、昨年度中間見直しを行った教育振興基本計画の全体像について改めて理解していただくとともに、コミュニティ・スクールについて取り上げ、これからの学校と地域の在り方について協議していくことを目的としています。 はじめに、事務局からみよし市教育振興基本計画の概略、本委員会の役割、計画推進の流れについて説明していただき、その後「２０の作戦PlusOne」について、関係課から説明していただきます。 その後、いったん休憩を取った後、全施策についての御意見を伺い、最後にコミュニティ・スクールの取組について協議します。
大村委員長 事務局・鈴木	それでは、はじめに「３ みよし市教育振興基本計画の概略」「４ 本委員会の役割」「５ 計画推進の流れ」について、事務局から説明をお願いします。 みよし市教育委員会学校教育課指導主事の鈴木です。 まずは、「３ みよし市教育振興基本計画の概略」について説明します。要項の２頁を御覧ください。 本市では、平成１５年に「三好町教育基本計画」を策定し、教育環境の整備と充実を図ってきました。そして、平成２６年・２７年には、２か年をかけて、新たな「みよし市教育振興基本計画—みよし教育プラン—」を策定し、さらに、これまでの成果と課題を踏まえ、時代の変化に対応した教育の在り方を見直し、令和３年３月に「みよし市教育振興基本計画の【改訂版】」を策定しました。 本計画は、教育委員会が所管する学校教育及び社会教育の分野を中心に、全ての市民の教育に関わる計画となっています。計画期間が平成２８年度から令和７年度の１０年間と示されておりますが、この期間の中間見直しとして昨年度改訂しました。

大村委員長	計画の基本理念は、「学ぶ楽しさで、人と人をつなぐ」ことで、目指す人間像は、「生涯にわたって自らを磨き続け、仲間と共に「ふるさとみよし」を築き、より良い次代を創り出す人」です。 本委員会の役割といたしましては、「みよし市教育振興基本計画【改訂版】」が着実に実行されるよう、プランの進捗状況を本日ここにいらっしゃる全委員で確認し、改善していくことです。本プランのPDCAサイクル、P（計画）→D（実行）→C（評価）→A（改善）という４段階の活動を繰り返し行うことで、継続的に改善していくことを目指しています。 計画推進の流れといたしましては、要項の３頁を御覧ください。本年度は本日の第１回と令和４年２月の第２回を予定しています。本日、本年度の計画について検討し、２月に本年度の取組について評価を行うとともに改善点を検討していきます。 令和４年度には、２回の推進委員会に加え、市民アンケートを実施します。市民の方々の評価を聞き、計画の推進状況を評価したり、見直しを図ったりしていきます。 令和６年度からは、策定委員会を組織し、再度市民アンケートを実施するとともに、令和７年度には新たな計画を策定します。 そして、令和８年度以降は、新たな計画をもとに推進していくこととなります。 以上、簡単ではありますが、本計画の概略及び委員会の役割について申し上げます。 ただ今の説明について、何か質問や確認したいことはありますか。 質問なし
江上学校教育課長	では、続いて、６の協議事項に入ります。 はじめに、重点施策である「２０の作戦PlusOne」の作戦⑩までについて、各課から１分以内で説明をお願いします。作戦PlusOneから順番をお願いします。 なお、作戦⑩までの説明が終わったところで、委員の皆様から御意見を伺います。それでは、学校教育課からお願いします。 資料１の１頁を御覧ください。作戦PlusOneの重点施策「みんなで育てるみよしっ子」の充実と周知啓発について説明します。本施策は、「みんなで育てるみよしっ子」の理念を家庭・地域・学校で共有し、それぞれの役割を果たしながら、子育てに関わっていくことができるようにするための新しい施策です。みよし市教育振興基本計画の本冊子２４・２５頁を御覧ください。「みんなで育てるみよしっ子」の内容がまとめてあります。令和２年度の推進委員会で、「みんなで育てる

池野子育て支援課長	みよしっ子」の内容について検討し、作成しました。令和3年度中に「みんなで育てるみよしっ子」のパンフレット（案）を作成し、令和4年度に家庭、学校、地域へ配布する予定です。令和5年度以降も内容や周知の方法を検討して施策を推進してまいります。 子育て支援課長の池野です。作戦①「安心して子育てができる環境を整えます」の内容について説明させていただきます。4頁を御覧ください。 重点施策として、「子育て総合支援センターでの交流、相談活動の推進」を図っていきます。子育て総合支援センターは、次世代を担う子どもの心身の健やかな育成を図るとともに、子育てに係る総合的な支援を行うために設置をしています。令和2年度までの取組及び達成状況の概要については、記載内容のとおりになります。 平成29年4月に開設してから、子育てに関する総合的な相談に関すること、親子の交流促進に関することや、子育てに関する講座等の事業を実施してきました。 平成30年度に実施した児童育成計画に係る「子ども・子育て支援ニーズ調査」では、子育て総合支援センターの利用者は、全体の3割で、利用頻度については月に1回から3回ほどという結果でした。そこで、令和3年度の行動予定にありますように、市のホームページ、広報みよし、みよし市子育て情報ナビ「みよびよ！」を利用して、子育て支援サービスや行事等の情報発信について、さらに周知を図ってまいりたいと思います。今後の取組予定としては、利用者のニーズを把握し、それぞれのニーズに対応した事業について検討していきます。 続いて次の頁の、作戦②「働きながら子育てをする市民を応援します」の内容について説明をいたします。6頁を御覧ください。重点施策として「放課後児童クラブによる子育て支援の拡充」を図っていきます。放課後児童クラブは、昼間や夕方に、就労などの理由により、保護者が家庭にいない児童を対象にして、放課後に安全に生活できる場所を提供するため、各小学校に開設する児童クラブで、通年及び夏休み期間中など、児童の預かりをしているところです。 令和2年度までの取組及び達成状況の概要については、記載内容のとおりになります。令和元年度からは、全クラブで2教室化し、6年生までの児童を預かっています。しかしながら、2教室化した後も対象児童の増加などの理由により、一部の児童クラブでは、毎年待機児童が発生しています。 そこで、令和3年度の行動予定にありますように、待機児童が発生している児童クラブの児童のうち、4年生までを対象として、定員に空きのある児童クラブに移送するということを、今年度4月から実施しています。 また、保護者の負担軽減を図るために、児童クラブを利用している児童と、下校時間時刻の遅い兄弟が一緒に下校でき
------------------	---

岡田教育部次長兼 教育行政課長	る仕組みを、希望制になりますけども検討していきたいと考えています。 今後の取組予定としては、移送対象児童の拡充などについて検討していきたいと考えています。以上です。
岡田教育部次長兼 教育行政課長	教育行政課岡田です。よろしくお願いします。私からは資料 7、8 頁の作戦③「子育てに役立つ情報をたくさん発信します」について説明させていただきます。 まず、現状と課題ですが、3 世代同居世帯が減少して、近親者や近所の身近な人から子育ての情報を得ることが非常に難しくなってきたこと、また、インターネットの情報には、かなりあやふやなものも多く、実際にどのようにすれば正しい情報が得られるかということが大きな問題になっています。重点施策は「家庭の教育力向上のための啓発活動の推進」とさせていただきました。施策の概要といたしましては、みよしの家庭教育に対する指針の見直しを行うとともに、広報みよしに掲載している「家庭教育だより はぐぐみ」について充実を図り、多くの方に読んでもらえるような広報啓発活動を行っていきます。また、家庭教育に役立つ様々な情報を、親子ガイドブックとして冊子にまとめ、配布していくというような計画があります。
岡田教育部次長兼 教育行政課長	行動予定ですが、今年度につきましては、みよし市家庭教育指針の見直しということで最終的に、令和 7 年には親子ガイドブックを配布したいと思っております。 成果指標としましては、広報と共に配布する家庭教育だよりを読んでいる保護者の割合は現状 41% ですので、70% まで引き上げたい、このように考えております。 8 頁へ移っていただいて、令和 2 年度までの取組達成状況の概要ということで、令和 2 年度までにつきましては、広報みよしに、定期的に「家庭教育だより はぐぐみ」を掲載させていただきました。 令和 3 年度の行動予定ですが、今年度につきましては、みよし市の家庭教育に対する指針の通りの見直しを図っていききたいと考えております。 令和 4 年度、5 年度、6 年度につきましては、資料に記載のとおりです。以上説明とさせていただきます。
江上学校教育課長	作戦④の重点施策「困難さを抱える家庭に対する個別支援の充実」について説明します。本施策については、令和 2 年度までに市でスクールカウンセラーの予算を補填して、各校に週に 1 回 6 時間配置できるようにしたり、相談機関の周知を図ったりするなどして、施策を進めてまいりました。令和 3 年度は関係機関との連携をさらに進めて施策を進めていきます。しかしながら、相談の需要は年々増加しており、また、相談内容も多様化しています。今後は、相談窓口の一元化、さらなる相談時間の充実を目指していきます。 作戦⑤の重点施策「主体的・対話的で深い学びを実現するための、教員の資質向上への取組」について説明します。本

施策については、新学習指導要領に対応した初任者研修、教員 2・3 年目研修を実施したり、教育課程・評価検討会議で「指導と評価の一体化を目指して」と題した冊子を作成したりするなど、教員の資質向上に努めてまいりました。本年度以降も ICT の活用をテーマとした研修の実施、教科領域等指導員の一部教科での複数配置、指導と評価の一体化の具体例の集約などに取り組むことで、教員の資質向上に努め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指していきます。

作戦⑥-1 の重点施策「授業における ICT 活用の推進」について説明します。本施策については、令和 2 年度に小中学生に配付した一人一台タブレットや大型提示装置の活用を推進していくための施策です。これまでも ICT 研修会を実施したり、ICT の活用事例集を作成したりしてまいりました。令和 3 年度以降も研修会や事例集の充実、カリキュラム作成に取り組み、子どもが ICT を活用する力を育ててまいります。

作戦⑥-2 の「新たな学びを支える ICT 教育環境整備の推進」について説明します。先ほど申し上げましたように、令和 2 年度中に、全小中学生に対して一人一台タブレットを配付しました。現在は、各学校で学習用タブレットを家庭に持ち帰る練習を進めています。令和 4 年度からは、モバイルルーターの活用推進などに取り組んでいきます。

作戦⑦の重点施策「ALT・小学校外国語対応非常勤講師による外国語指導の充実」について説明します。現在、小学校で行うほとんどの授業で ALT もしくは、外国語対応非常勤講師が担任と協力して外国語・外国語活動の授業を実施しています。中学校でも、年間 35 時間は ALT とのティームティーチングによる授業を実施しています。今後も継続するとともに、令和 3 年度は、コロナ禍でも小学生のイングリッシュキャンプが実施できるよう、オンラインでの実施を予定しています。今後も生きた英語に触れる外国語学習の充実を図ってまいります。

作戦⑧の重点施策「道徳教育の研究推進」について説明します。みよし市の小中学校ではどの学校でも「特別の教科 道徳」の授業研究を盛んに行ったり、教育活動全体を通して道徳教育を推進したりしてきました。また、情報モラルに関する授業実践の資料を蓄積したり、市教委主催の道徳推進教師研修会を実施したりしてきました。今後も継続するとともに、「特別の教科 道徳」の評価に関する研究も進めていきます。

作戦⑨の重点施策「みよし市体力向上計画の推進」について説明します。これまでも市教委で「ウォーミングアップドリルや運動遊び集」を作成して小中学校だけでなく保育園や幼稚園にも配布して活用を促してきました。しかしながら、近年のみよし市の子どもたちの体力は、全国平均を下回る状況が続いています。今後は、「ウォーミングアップドリルや運動遊び集」の充実だけでなく「いいじゃんスポーツチャレンジ in みよし」の開催など、子どもたちが自主的に運動しよ

	うとする意欲を促し、楽しく運動した結果としての体力の向上を目指します。令和3年度は、「いいじゃんスポーツチャレンジ in みよし」の8の字跳びの通信制大会を実施しています。今後も、「いいじゃんスポーツチャレンジ in みよし」の種目を増やすなど、充実を図っていきます。 作戦⑩の重点施策「個別支援を要する子どもへのサポート体制の充実」について説明します。これまでも「個別的教育支援計画・指導計画」等を各学校で作成、切れ目のない充実した支援ができるよう施策を進めてきました。令和2年度は、日本語指導が必要な児童生徒のための初期指導教室を「学びの森(なかよし教室)」に加え、三好丘小学校内(おかよし教室)にも配置しました。令和3年度以降は、小学校へ入る前の支援を充実させるため、外国籍の未就学の子ども達に対して、年間16回のプレスクールを実施します。そして、プレスクールを継続するとともに、「個別的教育支援計画・指導計画」がさらに有効に活用できる方法を検討していきます。
大村委員長 古井委員	ありがとうございました。それではここで一度切って、御質問など伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。困っているところで御質問はありませんでしょうか。 参考に聞かせていただきたいのですが、作戦⑥-2タブレットの持ち帰りをさせるといことですが、もし、壊してしまった場合の保証など、どのような対応されるのか聞かせてください。故意にということはないと思いますが、水をこぼしてしまった場合、落として割れてしまった場合など、どのように対応されるのでしょうか。
岡田教育部次長兼 教育行政課長 大村委員長 吉澤委員	教育行政課の岡田です。今回整備しましたタブレットにつきましては、5年リースで整備したものでありまして、リースの中で動産保険というものに加入しております。 基本的には、故意でなければリースの保険で対応できるようになっております。親御さんの負担は基本的にはないものと考えております。以上です。 よろしいでしょうか。はい、ありがとうございました。その他、いかがでしょうか。 三好中学校吉澤です。作戦①と作戦④に関わって質問します。作戦④では、学びの森での相談、市役所での相談、そして、学校での相談、いろんな相談場所があることで本当に助かっています。例えば、親子で相談したいと言ったときに、この子は女の人がいいとか、男の人がいいとかって言うことがあります。そのときに、相談できる箇所がたくさんあることで、助かっています。だから、本校でも一人は学校のスクールカウンセラー、一人は学びの森のカウンセラー、もう一人は、市役所で夕方から相談というような形でやっております。ぜひ増やして欲しいなということを思います。これから本当に必要になります。子どもも親も疲れている、そんな気がします。 作戦①の中で、相談活動の推進ということがあるのですけ

池野子育て支援課長	れども、現状、どのぐらいの方がどのぐらいの時間単位にどこで相談をしているのでしょうか。 学校現場でいけば、学校にもいるよ、学びの森にもいろいろあるよ、市役所にもいるよ、時間帯も平日の夕方もあります。状況がどうなのか、少し教えていただきたいです。 それから、積極的に相談したいと思えるような状況が大切だと思います。中学校ぐらいになると、はっきり子どもの行動に問題行動が現れてきて、親が困ることがあります。でも、乳幼児や今幼児だと困るのかどうなのか。そうすると、相談をしようという意欲がなくなる場合もあるのではないのかと思います。例えば、自分自身があるといいなと思っているのが、5歳児健診です。専門家から見たときに「お母さん、気づいてないですけどこうですよ」と言われたら、相談しようかなって思うと思います。令和4年度の行動予定に相談内容の傾向を分析し、ニーズを把握ということがありますけれども、本当の意味での傾向だとかニーズを知るための方法も考えていく必要があると思います。以上です。 子育て支援課長池田です。子育て総合支援センターでの相談につきましては、今年度から子ども家庭総合支援拠点を市役所の子育て支援課の中に、国の要請により設置しました。そちらで専門性をもった職員を配置して対応していきます。国は、令和4年度までに設置するようというところをみよし市の場合は1年度前倒しをして、今年度から設置しております。その中に、保育士、保健師、家庭児童相談員、教員の免許をもった職員、社会福祉主事など、専門性をもった職員を配置しております。子育てだけではなく、子どもに関するあらゆる相談について、まず子育て支援課の窓口で受けるという体制が今はできています。
大村委員長	しかし、前倒しで急遽つくりましたので、まだPRができません。これからそういった体制について発信をし、どんどん市役所に相談に来てくださいということをPRしていきたいと思います。今までの相談件数については、今は資料がないため、お答えすることができません。
吉澤委員	はい。ありがとうございます。この件についてはよろしいでしょうか。 作戦②で児童クラブの利用児童数について現状602人から640人に増やすというふうになっていますが、現状として、今、待機児童が発生しています。これから改善するための方法があるのかということを教えてください。 もう一つは、意見として考えてもらえたらということで、作戦③の家庭の教育力、家庭の教育に関する指針の見直しについてです。これと「みんなで育てるみよしっ子」のことを関連付けてやってもらえたらいいと思っています。これについては、御回答いただけてなくても結構です。
大村委員長 池野子育て支援課長	はい。ありがとうございます。それでは、お願いします。 はい。子育て支援課、池野です。児童クラブにつきまして

	は、今年度から待機児童対策ということで、タクシーによる移送事業というのを始めました。各クラブ2クラスずつありまして、定員は80名です。総数8クラブありますので、8校×80名で640名が最大の定員になります。ただ、小学校によっては、子どもの数が違いますので、定員に空きのある小学校の児童クラブと待機児童が発生してしまう児童クラブがありまして、今のところ、児童数が多い天王小学校と北部小学校に待機児童が発生しております。天王小学校がだんだんと児童数が増えてきてまして、移送事業を考えました。今年度から実施したのですが、北部小学校では10名、天王小学校で18名の待機児童が発生してしまいました。それでも9名ずつを北部小学校から緑丘小学校、天王小学校から南部小学校の方に、児童を移送しまして、少しでも、待機児童の解消に努めています。希望制ですので、保護者の方がお迎えに行く場所が変わってしまうため、違う小学校でもいいですかということを確認しています。そのまま待機児童でいいですという方もみえるため、今現在、待機児童はいます。全員が移送してもよいということであれば、今年度は600名ほどが入所し、まだ40ほど空きがありますので、全員を移送することができるのですが、どうしても、親御さんの都合というのもありまして、そのところで待機児童が今後も発生してしまうのかなと思います。 2クラス化ということで640名の定員があれば、今のところは、全員が移送希望していただければ、カバーできるかなというふうには考えております。
大村委員長	はい、ありがとうございます。関連して質問させていただきたいのですが、この待機児童問題は移送による解決だけをお考えなのか、それともその子どもの数が多いところは、定員80名ではなくて、もっと増やすということはお考えにならないのか、その点いかがでしょうか。
池野子育て支援課長	数年前から各小学校の2クラス化ということを目指してまいりまして、平成31年に目標が達成できたところがありますので、その目標が変われば3クラス化とかということもあるんですけども、そこまで児童が今後増えていくかというと、今の人口推計で見ると、そこまでは増えない見通しです。しばらくこの状態を続けていれば、2クラスで十分足りていくのではないかと考えています。
大村委員長	移送というのも緊急避難的には、よいかと思いますが、放課後児童クラブのよさは、小学校1年生から6年生まで、縦の繋がりがあって、世話したりしてもらったり、そうした年齢を超えた関係を大事にしていくというところが、教育実践としては非常に大事なところだと思います。そのためには、やはり一つの学校でこの集団を形成していくという見通しをもった方がいいと思います。なるべく移送せずに、その学校の子どもたちをその地域の中で、ちゃんと見ていくっていうこともお考えいただけたらというふうに思いますので、御検

大村委員長 古井委員	討いたきたいと思います。 他、御質問いかがでしょうか。 御提案ということでよろしくお願いします。作戦⑤についてでありますけども、初任者と2、3年目の研修ということなんですけど、もしよければ御活用くださいということです。県内唯一のタイプの専門学科をもつ三好高校でありまして、たまたまみよし市にあります。国、数、英、社以外のタイプの専門科目教科は本校でしか受けられません。例えばテーピングだとか、人体解剖学だとか、そういった特殊な授業も体験できますので、御活用いただければなというふうに思っております。 それから、作戦⑨であります。体力向上計画ということで、これもまた本校の話になってしまいますが、体育の専門教師が16名います。他校にはない人数だと思っております。昨年度、南部小学校で、ラグビーを取り入れたタグラグビーを実施しました。全く危なくありません。体力づくりということで、本校の職員、そしてまた時間の状況で生徒を派遣して授業に参加をさせていただき、大変好評でした。6時間計画の授業で、専門家がたくさんいますので、授業のノウハウ、または道具等々についての御相談、本校の職員も派遣しますので、そんなことで連携を保っていけたらなという御提案です。どんどん活用いただければありがたいです。以上です。
大村委員長	はい。ありがとうございました。今コロナ禍の中で、子どもたちの運動不足が非常に問題になっていています。この間もNHKのニュース番組で、やっぱり体を動かして遊びながら、筋肉をつけていくので、子どもの時に十分遊んでおかないといけない。その後の人生の中でも、筋肉がついていくかどうか、あるいは高齢になると早期に筋肉を失ってしまうということにもなりかねないので、やはりこの時期の運動は大事だということです。
大村委員長	作戦⑩なのですが、個別の支援が必要な子どもについて、外国にルーツをもつ子どもたちへの支援としてプレスクールを整備されていますが、現状のプレスクールでは足りないのではないかという議論もあります。プレスクールで十分、日本語能力が身につかず学校に入ってしまうと、取りこぼされてしまう恐れがあると言われています。みよし市では、その辺では、どういう取組をされているのでしょうか。
江上学校教育課長	今年度からプレスクールを実施しています。先週の土曜日、第1回を開催しました。子どもたちの様子を踏まえ、保護者との関係づくりをしながら、今後対応を考えていこうと思っております。特に、本市のプレスクールについては、小学校からの日本語指導、初期指導教室で対応する講師の方たちがそのままプレスクールにも対応していただいています。そういった面でも、つながりをもって指導ができと思っています。
大村委員長	はい、ありがとうございます。子どもたちの様子をつかん

	でいただくということで、それに合った対応を考えていただけたらと思います
大村委員長 江上学校教育課長 岡田教育部次長兼 教育行政課長	それでは、続きということで作戦⑪から⑳までについての説明をお願いします。 作戦⑪の重点施策「小中学校における学級指導体制の充実」について説明します。現在みよし市では、市独自の施策として小中学校の全学年で35人学級を実施しています。1学級当たりの人数が少ないことは、一人一人に応じたきめ細かな支援ができるだけでなく、新型コロナウイルス感染防止対策としても有効だと考えています。令和3年度は、さらなる少人数学級の成果を検証するため、三吉小学校の2年生で30人学級（1クラス21人or22人）を実施しています。今後は、30人学級の成果の検証とともに、小学校における教科担任制も進めていきます。 作戦⑫「安全、安心、安全、快適な学校環境づくりを進めます」の現状と課題といたしましては、小中学校の校舎すべて耐震化の対策は進んでいますが、築30年40年経ち、老朽化が大きな問題となっております。本市では、平成14年度に北部小学校から順次、大規模改修という手法によって、学校のリフレッシュ化を図っております。重点施策は「大規模改修による学校施設の整備」です。施策の概要としましては、小中学校施設整備指針に基づき、老朽化した小中学校の校舎の大規模改修を順次進めています。また、あわせて時代に合った設備に刷新するとともに、バリアフリー化や省エネルギー化も進め、内装材には木製品を使うようにするなど、ぬくもりを感じられる学校づくりを推進しています。令和3年度につきましては、三吉小学校の大規模改修が2期工事になります。その後、令和6年度まで南中学校の大規模改修、令和7年度から南部小学校の大規模改修を実施する予定であります。成果指標としましては、学校施設が安心、安全快適である児童生徒の割合を、小学生、中学生ともに90%以上にするということが目標でございます。 令和2年度までの取組ということで、平成14年度に北部小学校、この後、三好中学校、北中学校、現在三吉小学校の大規模改修を概ね1校当たり3年程度をかけて実施しています。大規模改修に当たりましては、整備指針というものを作り、その基準に照らして実施しているところです。 令和3年度につきましては、三吉小学校の二期工事と南中学校の一期工事の設計を実施します。 令和4年度、5年度、6年度につきましては、資料に記載の通りでございます。以上、説明とさせていただきます。 作戦⑬の重点施策「みよし市版コミュニティ・スクール」の設置について説明します。令和3年度は、モデル校を三好中学校として「コミュニティ・スクール」を設置しました。地域コーディネーターを配置し、地域学校協働本部設置の準備も進めています。令和5年度には全小中学校に「コミュニ
江上学校教育課長	

橋本生涯学習課長	ティ・スクール」を設置するとともに、地域学校協働本部の設置も進めます。後ほど、協議（３）でも担当から説明させていただきます。 作戦⑭「サンライズでいろいろなことが学べるようにします」について説明させていただきます。現状と課題につきましては、平成２８年７月に、サンライズ生涯学習、学習交流プラザサンライズが新たに開館いたしまして、こちらでは生涯学習、図書館、あと文化協会を中心とする文化振興、以上の三つの事業について取り組んでおります。市民の一人一人が生涯を通じて、生きがいをもって学ぶことができる場や機会を提供するために、幅広い分野にわたる生涯学習講座を開催しております。こちらにつきましては、生涯学習講座部分になりますが、重点施策としまして、サンライズの生涯学習拠点化の推進ということになります。昨年度までの取組につきましては、サンライズのオープンに当たりまして、講座室の環境が向上しておりますので、それに即した市民ニーズに応じた各種の講座を開催しております。 また、図書館につきましても、窓口運営を外部委託化いたしまして、市民サービスの向上に努めております。今後の行動予定としましては、本年度中に第三次生涯学習推進基本計画という新たな計画を策定しています。図書館だけではなく、生涯学習ということで、市全体の取組を進めていきたいと考えております。 続きまして、次の頁、３３、３４頁をお願いします。作戦⑮「市民が発信する生涯学習活動を応援します」の現状と課題について説明します。本市では、生涯学習講座などで出会った市民が、仲間とともに自主活動をする生涯学習団体を作っています。現在本市には６２の生涯学習活動団体があります。スポーツから文化、芸術文化まで幅広い活動を展開しています。生涯学習推進課の支援としましては、団体がその成果を発表できる場を準備したり、団体づくりをしたいと考えている人たちを応援したりすることです。重点施策としましては、地域や自主的サークルによる生涯学習の推進です。昨年度までの取組につきましては、サンライズや地区の公民館で自主的に活動している、したいと考えている生涯学習団体へ助成を行っています。また、生涯学習発表会の芸能部門と展示部門ではありますが、成果を発表する場所を提供しております。今後の取組としましては、先ほど言った活動の場や、こういった団体が少しでも増えるようなPR活動に力を入れていきたいと考えています。以上です。
甲村スポーツ課長	スポーツ課長の甲村です。続きまして３５頁をお開きください。私からは作戦⑯「市民がいろいろなスポーツに親しめるようにします」について説明をさせていただきます。初めに現状の課題につきましては、全国的に子どもの体力の低下傾向が見られることです。また、本市のスポーツアンケートを毎年実施していますが、この中で運動習慣がほとんどない

	成人の割合が、常に５０％以上あるという状況であることです。このようなことから、心身の健康を高めていくために、地域全体でスポーツに親しむ環境整備を進めていく必要性が高まっています。重点施策につきましては「総合型地域スポーツクラブの育成」です。現在、市内に三つの総合型地域スポーツクラブがあり、活動をしています。引き続き活動の支援を行うことで、市民がスポーツに親しめる機会を提供してまいります。成果指標の総合型地域スポーツクラブで活動した人数は、令和元年で５３，１８７人でございます。 成果目標につきましては、前回計画では、５０，０００人だったものを５８，０００人に引き上げました。今年度につきましては、総合型地域スポーツクラブの法人化を目指しているところもございまして、必要な支援を行っていく予定です。以上です。
村山歴史民俗資料館長	歴史民俗資料館の村山です。資料３７、３８頁を御覧ください。作戦⑰「みよし市の歴史や文化を広く市民に発信します」について説明します。重点施策は「歴史民俗資料館の展示の充実」です。資料館では、平成２８度に展示室をリニューアルして、企画展示と常設展示を完全に分け、猿投古窯の歴史文化など、常設展示を充実させました。また、展示会のほかにも、体験講座、出張事業などの各種イベントも開催してまいりました。本年度は年４回の展示会のほかにも、小学校での灰釉陶器づくりの体験や今後の資料館のあり方を検討するための委員会を設置してまいります。現在の状況としましては、春季企画展の開催、灰釉陶器づくりの体験の申し込みが４校ありました。今後の計画は、資料館のあり方検討会検討委員会からの提言を受けて、今後の方針を検討し、展示会等に反映させていきたいと考えております。以上説明とさせていただきます。
橋本生涯学習課長	３９、４０頁を御覧ください。作戦⑱「読書好きな市民が増えるような環境づくりをします」について説明します。まずは、現状と課題についてですが、サンライズの中にある中央図書館につきましては、平成２８年７月に新たにオープンいたしまして、１０万冊を超える蔵書収容能力があり、子どもからお年寄りまで、多くの皆様に利用していただいています。また、サンネット図書コーナーとも連携しまして、図書館サービスの充実に努めています。来館者数は、コロナ禍の影響もありまして、昨年度は若干減りましたが、貸出冊数につきましては、増えている状況です。今後は、図書の貸し出しだけでなく、特集展示、お話し会、ボランティア養成講座、また、学校図書館の連携など、より多くの市民の皆様に、図書に親しんでいただくような施策を進めていきたいと考えています。続いて重点施策「サンライズでの充実した図書館サービスの推進」については、令和２年度までは、特殊展示など市民の皆様の興味を引くような形で進めてきました。また、令和３年度から５年度まで、図書館の窓口業務につきまして

江上学校教育課長	は、プロポーザル方式により業務委託の業者が新たに決定しましたので、そちらとも連携して市民サービスの向上に努めてまいりたいと思います。今後につきましては、今年度中に、第4次子ども読書活動推進計画を策定いたしまして、子どもの読書に親しむ機会の向上に向けて、計画を推進していきたいと考えています。以上です。 作戦⑱の重点施策「ふるさと学習の推進」について説明します。平成28年度に副読本「みよし」を改訂し、小学校の学習だけでなく、みよし市に赴任した初任者の教員研修にも利用するなど、さまざまに活用してきました。令和2年度に再度改訂する予定でしたが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止し、本年度改訂することといたしました。今後は、副読本「みよし」の内容を充実させるとともにさらなる活用方法についても検討してまいります。 作戦⑳の重点施策「学校ボランティアをきっかけとした地域教育力の結集」について説明します。これまで、長期休業中に地域の力で学習指導を行うため、「みよし未来塾」を夏休み・冬休みに実施してきました。今後は、みよし未来塾の継続とともに、コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の設置などにより、学校づくり、地域づくりを進めてまいりたいと思います。作戦㉑の内容についても、協議(3)で、後ほど担当から説明させていただきます。
大村委員長 富樫委員 村山歴史民俗資料館長 大村委員長	それでは、作戦⑪から㉑について、御質問等がありましたら、お願いします。 作戦⑰のみよし市の歴史や文化を広くという、資料館、歴史民俗資料館の方に質問します。現状と課題の中にも、猿投古窯という言葉が書いてあります。皆様に行き渡っていると思います。とても大切なことで、子どもたちがそれを糧にして、みよし市はいい街だという思いになれるのはとてもいいことです。ですから、古窯研究会というのを立ち上げて古窯研究会のメンバーでいろいろ話したり依頼があったりしたら小学校へ行ったりしています。陶器づくりの講座をするなど、私もそのメンバーに入っていますが、その中で話題になることが、猿投古窯という名前です。みんなみよし市にあるので、猿投古窯という言葉ではなく、みよし古窯にできないかと。名称等、協議をされる機会があったらしていただきたいという要望です。以上です。 猿投古窯につきましては、今、御説明、御質問ありましたように、猿投西南六古窯跡群という正式名称がありまして、通称で猿投古窯と言っています。みよし古窯という言い方はしていません。猿投古窯の中で、みよし市にたくさんの古窯があって、その中でも特に黒笹に中心的に古窯があったと今後も説明させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。 みよし古窯というふうな名前、あるいは愛称をつけた方が、市民によくわかるのではないかとということですね。

富樫委員 大村委員長	はい。
吉川委員	これは考古学の用語の問題もありますので、また御検討いただければと思います。その他御質問いかがでしょうか。
吉川委員	何点かお願いします。まず1点目ですが、作戦⑩の総合型地域スポーツクラブについてです。総合型地域スポーツクラブが増えたのが平成28年ぐらいか思うのですが、53,000人のうち、新しくできた、きたよし地区のスポーツクラブがどれぐらいの割合を占めているのか分かれば教えてください。
吉川委員	2点目は作戦⑪についてです。サンライブでいろいろなことが学べるようにこの作戦⑪が計画されていると思います。平成26年の頃から考えると、なかなか2,500人ぐらいを超えることができずに、コロナ禍であることは関係なくとも、増加傾向というよりは、微減ぐらいというふうに資料から読み取れます。なかなか生涯活動の受講数が増えていかない原因を関係課ではどんなふうに分析しているのか教えてください。
吉川委員	最後3点目は少し質問というよりは意見になりますが、作戦⑫の大規模改修の件です。
吉川委員	本校も、今年工事等をしていただいて大変お世話になっています。個人的な思いとしては、27頁の資料を見る限りでは、1校につき、3年から4年かけて改修しますので、12校あるため、大規模改修が回ってくるのが30年から40年に1回ぐらいという計算になると思います。ぜひ検討していただきたいのは、学校でどんなふうにしてほしいですかと聞かれた場合、どうしても直近のここ数年のことしか考えられなくなってしまいます。しかし、30年後、40年後ということを考えて大規模改修をする必要があると思いますので、例えば、今後もプールを学校で維持していくのかとか、先ほど子育て支援課の待機児童の話も出ましたが、地域と教育との連携も含め、学校がどんなふうに校舎として考えていくのかとか、30年先は難しいかもしれませんが、10年後、20年後を見越して、大規模改修の設計をしていただけるとよいと思います。以上質問二つと意見一つです。
甲村スポーツ課長	御質問の総合型地域スポーツクラブが3団体ある中で、一番新しく平成28年に設立された団体がどれぐらいの割合を占めているかということによろしいですね。
甲村スポーツ課長	53,187人の内訳ですが、一番初めに設立された三好中学校を拠点として活動しているなかよしクラブというクラブがございます。こちらが、39,384人。明越会館で活動されている、さんさんスポーツクラブが9,315人。最後に一番新しくできた東海学園大学の中に活動拠点を設けている、ともいきスポーツクラブが4,488人です。1割程度になろうかと思います。以上です。
橋本生涯学習課長	作戦⑭「サンライブでいろいろなことが学べるようにします」について説明、お答えさせていただきます。委員の言わ

吉川委員	れたとおり、こちらの指標につきましては、サンライズ生涯学習講座を受講した人数ということで、サンライズができてからここ5年ぐらいの経過を見ますと、2, 300人前後で増えたり減ったりというような状況です。昨年度は、コロナの影響でかなり減っています。これまでの振り返りをさせていただきますと、生涯学習という概念ができてから20年を経過するということになり、当初の計画が平成13年からですので、当時みよしで学習できる環境が少なく、いろんな学習の機会を用意しようとスタートしたのが、最初だと聞いております。特に、パソコンなど、情報通信系の進展が早く、当時、高齢の方がパソコンのエクセルやワードというのを使ったことがなく、過去においてはそういったものがかなり人気で、参加者が多かったという経緯があると聞いています。この20年間で、高齢の方でもパソコンに精通した方がかなり多くなり、初級の講座につきましては、毎回同じ方というような、メンバーの固定化が一つ課題です。 新たに昨年度からは、コロナの影響で対面式ができませんので、ズームとかそういったものの講座やスマートフォンの技術もかなり進展していますので、そういったものに対応するような講座を増やしながら、時代に合わせた形で講座を展開しています。 あと、語学、ダンス、料理などにつきましては、時代の進展に関係なく皆様に興味があるものだと思っておりますが、先ほど言ったようにメンバーの固定化というのが少し問題になっています。いろんな講師の方を探し、幅広い市民のニーズに対応した講座を開いていきたいと考えています。今私が申し上げたことも含めまして、今年度策定する次の計画（第3次生涯学習推進計画）の中に、こういったものやっていくかとか、この指標はこのままでもよいのかということにつきましても抜本的に考え直していきたいと思っています。また、現状の考えとしましては、愛知教育大学、東海学園大学など、近隣の大学との包括協定も結んでいますので、そういった方等の公開講座につきましても、年に2回程度開催していますが、少し幅を広げていきたいと考えています。それほど数は増えないかもしれませんが、大学の先生方とも連携も進めていって、多くの方に教育の場を提供していきたいと考えています。以上です。 自分がとても疑問なのが、サンライズの生涯学習のここ数年を考えると、サンライズという新しい建物、拠点ができて夜間講座が充実したり、土日の講座が充実したり生涯学習課としては、やることをやっているいろんなこと手を打っているという事は思います。そうしたことをやっているにもかかわらず、人数が増えていかないのかというのが、みよし市だけの問題なのか、それとも全国的とか、中部地方とか、時代の流れの中で、生涯学習というのが上昇傾向ではなくて下降傾向なのか、そのあたりが、なぜなのかについて、どなたか教
-------------	--

橋本生涯学習課長	えていただければというふうに思います。 愛知県の会議等、近隣市町との会議に出ますと、いろんな方策を打っていても参加者が増えないという状況があると把握しています。その要因としましては、やはり、昔で言うと60歳で定年になって、そのあと余暇を過ごす、学習するという、学んだことをまた地域に生かしていただくというような形で、参加者をその辺に絞っていたということがあります。勤労者だとか、土日しか来られない方だとか、障害者の方とか、なるべく多くの方に参加していただくよう拠点を整備いたしました。しかし、定年が延びたりだとか、いわゆるライフスタイルの価値観の相違があったりするなど、そういった問題もあります。PR不足というところがあるとは思っていますが、そういったところで、なかなか伸びないというふうに分析しています。あとは、指標があくまでサンライブで行ったものになっているというの也有ります。市内全域ですと、例えば子育て支援課だとか、長寿介護課だとか、市民病院だとか、いろんなところでいわゆる生涯学習に繋がるような講座をいろいろ開催しています。そういったものも本来ですと生涯学習推進課がすべて吸い上げなければならないというところが、課題と感じております。こちらについても次の計画に盛り込ませていただいて、みよし市全体の生涯学習についてPRしていきたいと思います。指標がサンライブの講座だけになっていますので、逆に全体的な取組、市民が自発的にやっているような講座につきましても、把握できるような方法を研究したいと考えています。
大村委員長	あと、愛知県もいろいろな講師の派遣だとか、活動していただいておりますので、そちらとも連携して、いろんなプログラムが組めたらいいと考えています。 社会教育、生涯学習の参加人口が、全体として減っています。生涯学習の主な担い手が、今までは専業主婦層と高齢者であったわけです。つまり、時間が自由になる人たちを対象に考えられてきました。1980年代から2000年代ぐらいまではそうでした。しかし、2000年代から変わってきたのは、女性の就労が当たり前になり、専業主婦よりも働く方の方が多くなってきました。シニア世代の就労もどんどん増えていって、70歳までは元気で働こうとなってきました。そうなってくると、生涯福祉だけではなく、地域づくりに関わる人達も含めて、その職場以外の地域社会で過ごす時間が減ってきていて、それで参加できないという傾向があります。ただ、それを少し違う視点で見ると、生涯学習とか社会教育が、時間がある人だけをターゲットにし、働く人であるとか、子育てに一生懸命になっている人のニーズを必ずしも拾ってこなかったということがあります。それで参加者が減ってきているという面もあります。ですから、働いている方、子育ての真最中の方が、どうすれば参加できるかということをお考えいただくことが一つ大事な課題です。子どもと

大村委員長 岡田教育部次長兼 教育行政課長 大地委員	一緒に参加でき、しかも、堅苦しくなくて、楽しめてリフレッシュできるような、そうした機会が今どれぐらい作られているのかという視点も必要です。 それから、この2月ですけども、日進市で「子どものまち」という取組をして、私もお手伝いさせていただきました。文化会館を使ってやられたのですが、応募が多くて抽選で絞ってという形でやられていました。コロナの前ですと、私も安城市でその「子どものまち」をやった時には、文化会館で子どもたちが二日間参加しました。子どもについては、生涯学習の対象として、今までちゃんと扱ってこなかったのではないかという思いもあります。ですから、今まで通りのやり方ではなくて、若い子すべての住民を対象にする、その可能性はないだろうかと考えていただくと、おそらく今まで、日が当たってなかった、生涯学習にアクセスできなかった人たちが参加できるようになるのではないかというそんな思いがあります。また御検討いただけたらと思います。 続いて、大規模改修についてお願いします。 教育行政課岡田です。大規模改修についての御意見ということで承らせていただきました。直近ではなくて30年後、40年後を見据えた中での改修ということで、私どもも常にそうしなければいけないとは思っています。しかし、そこまでは見ているかという疑問なところがありますので、そういう視点でやっていきたいと考えています。あと、プールをどうしていくのかということにつきましては、すでに先進的なところでは、学校にプールをもたないというところもありますので、今後の課題としていきます。それから、地域との連携というお話もあったかと思いますが、こちらにつきましても、今後、例えば学校の教室に余裕ができたときにそういうところを使っていけるような形を見据えた施設整備も大切だと考えています。以上です。 この会議全体なのですが、たくさんのプランを考えていただいて本当に一つずつ丁寧にチェックして、進んでいるというのは大変よいと思います。市の担当の方もそれぞれ考えてくださっています。いろいろ企画していただいて、いろんな意見を吸い上げていただいてということで、意見が出せるよい会だと思っていますが、全体について意見を求められた場合に、何か思いつきのような意見とか、部分的な意見を述べるような形になってしまうことが多いです。先ほど、吉澤先生とか吉川先生とか、ここに関わってみえる方がその部分で丁寧に意見を言われていますが、それが全員にできるかというところではないと思います。意見を全部言うのはなかなか難しいし、とらえていくというのも大変難しいと感じています。教育長さんからの御挨拶にもあったのですが、例えば目標と指標があっているとか、ここは改善していかなければいけないのではないかということの一つずつ考えていくためには、もう少し小さい単位で行うとよいと思います。21の作
--	--

教育長 大村委員長	戦、全部考えてどうですかということではなくて、市の方も含めて何かのグループで、ここの部分についてもうちょっと丁寧に考えていくとか、ここを改善していくとか、そういうやり方もあるのではないかと感じています。全体を見たり検討したりすることも必要ですし、あと、細かい部分についてみんなで考え合っていくということも必要ではないかと思っています。以上です。 おっしゃる通りだと思います。この会では、これまでグループ討議で、それぞれの分野で時間が足りないぐらい御意見いただいて、この計画ができました。 今回はコロナ禍であることとメンバーが変わったということでこういう形にしました。今までグループになって皆様からいろんな視点で意見をいただき、途切れることなく、時間が足らなくなるくらい話し合っていました。また、次回の会の参考にさせていただき、さらにより良いものになればと思っています。今回は悩みましたが、このようにさせていただきました。 ありがとうございました。協議事項（１）まで終了しました。ここで少し休憩を取ります。１０分後の１０時４３分ぐらいをめどに席にお戻りいただければと思います。それでは休憩に入ります。
大村委員長	時間になりましたので、再開します。協議事項（２）体系別、全施策の進捗状況についてです。資料２については、事前に皆様に届いていますので、御意見や御質問を受けたいと思います。御質問、御意見のある方はお願いします。
池野子育て支援課長 大村委員長 吉澤委員	誤りがありましたので修正をお願いしたいです。資料２の１頁目の「１．子育て世帯を支援する」「（１）安心して子育てのできる環境づくり」「ウ 児童発達支援事業「よつば」での発達支援の推進」に「定員１５名」と書かれていますが、今年度から「定員１８名」に変更していますので訂正をお願いします。 御質問、御意見のある方はお願いします。 資料２の１頁を見ると最初に「みんなで育てるみよしっ子」ということが書いてあります。担当課を見ると学校教育課と教育行政課になっています。先ほど質問した、家庭の教育力向上のための啓発活動の推進、みよし市の家庭教育に関する指針の見直しを行うということになっています。体系別で、施策と関係課が並んでいて、子どものことに関わる課が協力して進めていることが分かります。ぜひ、「みんなで育てるみよしっ子」のことと、「家庭教育だより」とが連携できるとよいと思います。「根っこは同じ」という感じになると思います。それから、保健事業実行委員会が「ノーメディアDAY」の取組を進めており、例えば、「メディアの使い方がしつかりしてくるとレジリエンスが高まる」というようなデータがあると思いますので、そういったものを活用していくこともできると思います。このことは、小中学生だけではなくて、

	幼児教育にもすごく重要なことだと思います。幼児をもつ保護者にも伝えていきたい情報です。そういった形でそれぞれの課がやっていることをどうつなげていくかということが、大事だと思っています。 それからもう1点。7頁にある「みよし・つながりシート」についてです。幼稚園、保育園から小学校へつなげていく。そして今度は、個別の教育支援計画、指導計画で小学校、中学校、高等学校へとつなげていきます。毎年1月終わるか2月の初旬に行う入学説明会で、御心配なことがあったらぜひ事前に相談をしてくださいと呼びかけていますが、なかなか来ていただけないです。それで昨年度末は、小学校で個別の教育支援計画を作成している児童の担任の先生に、その保護者に連絡を取ってもらって、中学校側とぜひ事前に相談しませんかと呼びかけてもらいました。その結果9名の方が、入学前の春休み中に相談に来てくれました。相談に来てもらうための手だてが必要なのだと思いました。最初の質問にも、また先ほどの質問に関わってくるのですが、相談体制を作るだけではなくて、相談をしたくなるような必然性、例えば、5歳児健診など、そういうことを考えていくことが、この計画をより実効性のある、効果のあるものにしていくのだと思います。
大村委員長	はい、ありがとうございます。今、委員の方から「みよし・つながりシート」など、切れ目のない支援をしていくために保護者に来ていただくなどの努力をされているという紹介がありました。市全体では、そういった取組はどれくらいされているのでしょうか。入学前相談というものがどれぐらいの件数があるのかなど、分かりますでしょうか。
事務局・菅田	特別支援教育を担当している学校教育課の菅田と申します。入学前の就学相談ですが、例年6月に実施しています。幼稚園、保育園の園長先生に呼びかけたり、子育て支援課で取り組んでいる「みよびよ！」という子育て支援サイトにも掲載したりして呼びかけています。昨年度については、事前に29名の方の相談があり、今年度実施した就学相談では、39名の相談がありました。以上です。
大村委員長	ありがとうございます。今のお話は、小学校1年生に入る時ですね。
事務局・菅田	はい。新就学児ということになりますので、来年度、一年生として就学する子どもたち、保護者の皆様を対象にした相談会ということになっています。
大村委員長	先ほど吉澤委員からは、小中学校のつなぎについて御意見がありました。中学校入学前相談も開催しているのでしょうか。
事務局・菅田	中学校入学前の相談については、各学校で進めているのが現状です。大変申し訳ないですが、把握ができておりません。小学校の先生から、事前に体験入学や教育相談を実施していることは聞いておりますが、正確な数が把握できておりませ

大村委員長	ん。 ありがとうございます。先ほどの御意見は、やはり施策として掲げてあっても、それがどの程度活用されているのかということに関わってくると思います。切れ目のない支援が必要な子どもがどれぐらいいて、そのなかで相談機能がどれくらい活用されているのかということのも大事な指標になるかと思っていますので、またお調べいただければありがたいと思います。
安森委員	その他いかがでしょうか。先ほど家庭教育全体について何か事務局から説明がありますでしょうか。なければ、御意見として受けとめていただければと思います。その他、委員の皆様から御質問等ありますでしょうか。
事務局・鈴木	今、コロナ禍で不登校の生徒も格段に増えていると思うのですが、その割合をみよし市はどうとらえているのでしょうか。コロナ禍での不登校の生徒数等、何か数値化しているのでしょうか。コロナ禍で対応した場合とコロナ禍以外で対応した場合は、全く違うと思われます。家族も親も子どもも疲れています。ですから、相談しに来ていいよと言葉をかけても簡単に来られないと思っています。ですから、しっかり市として、学校として、積極的に対応していくべきだと思います。大人の力で育てる子どもですので、大人が育てなかったら子どもも成長はできません。親に対しても、以前と違ったコロナ禍での対応を検討していかなければと思っています。
事務局・鈴木	学校教育課鈴木です。不登校についての概要ですけれども、不登校児童生徒は、平成30年度まではずっと増加傾向が続いていました。しかし、みよし市では、未然に対応、素早く対応することもできてきて、令和元年度に一旦減りました。しかし、令和2年度はコロナ禍ということで再び急増し、数的には大変多い状況になってしまいました。ただ、みよし市では、学校復帰ということだけを目指すのではなく、大切にしているのは、一人一人に応じた支援ができていくかということです。結果として、学校復帰できればよいと思っています。中学校卒業までは学校に通うことはできないけれども、そのあとで一歩踏み出していくというようなことも多くありますので、一人一人に応じた支援をしていくことに重点を置いています。そういった意味でも相談活動の充実等、進めています。以上です。
大村委員長	少し心配なのは、相談にも来られない方で、不登校の子どもさんの家庭という、社会的に家庭が伏してしまっているということが、特にコロナ禍では指摘されています。自治体がいくらサポートしようと手を伸ばしても、その手を握られないことがあります。そういった貧困の問題も併せてこの問題が指摘されています。そうしたケースが、みよし市では見られるでしょうか。
事務局・鈴木	実際には、相談したい家庭となかなか相談できないこともあります。しかし、学校がアプローチをしながら、積極的に

	繋がっていく、学校と家庭とが繋がっていくという努力をしています。それから、市でも子育て支援課だとか、福祉課だとか、そういったところと繋がって、一人一人を支援できるように努めています。以上です。
吉川委員	一つ、具体的な事例なのですが、数年前に自分の勤めている学校で、大変困った事例がありました。ずっと学校に行っていない、学校に行く習慣がないという家庭がありまして、何とか学校に来させたいと思って、面接をしたり、セッティングしたりしても来られないことが続いていました。その時に、学びの森に相談をして、人を派遣してもらったり、子育て支援課から家庭訪問してもらったりしました。最終的には、親御さんに子どもを育てる義務があるから学校にしっかり行かせないといけないよと誰かに言ってもらいたいのではないかと思い、学校教育課に相談しました。すぐに、指導主事が訪問して話をしていただいたら、早速、学校に来るようになり、今は週に半分ぐらいは学校に来るようになりました。学校というものが、その家庭にやっと根づいてきました。そんなふうに、いろんな方が助けていただけるような仕組みは、できているかなということを感じています。以上です。
大村委員長	ありがとうございました。先ほどの御意見もあつたように横の連携ですね。それができているかどうか。連携する中で支援しようとしている事例だと思います。
大地委員	意見です。個に対してということが今もよく出てきましたが、個別の教育支援計画というものを作成するというのがいろんなところで、手だてとして書かれています。不登校の子であったり、発達障害であったり、外国籍であったり、個別の教育支援計画や個別の指導計画は、作るのにすごく手間がかかるけれども、あまり生かされないということが、私も経験上ありました。作る方も大変ですし、それが生かされないとすごく残念なので、本当に何が必要かとか、どこの部分が必要かということをよく検討して、必要な部分で作るということを考えてほしいと思っています。以上です。
近藤委員	一つ教えてください。6頁（1）のエ、新規事業で、フリースクールとの連携と書いてあります。私がスクールカウンセラーをしていたときに、どうしても学校は無理という子が何人か出てきました。でも、フリースクールなら行ける。中学校は1日も行けなかったけれども、フリースクールから高校に行った子が何人もいます。今、みよし市でこのフリースクールの連携とこう書いてありますが、みよし近辺でいくつぐらいあるのか教えていただきたいです。
事務局・鈴木	フリースクールについては、みよし市の北部は駅に近いということもあるため、名古屋の方に行けますので、名古屋にある民間のフリースクールに行っている子たちが何人もいます。また、名古屋でなくても、岡崎や日進など、いろんなところに行っている子たちがいます。
近藤委員	それでもう一つは、フリースクールへ行っている保護者と

事務局・鈴木	本人と学校がどういう接触があるのかということです。そこが一つポイントだと思うのですが、その辺はどうでしょうか。 フリースクールに行ったから学校とは途切れてしまうということがないように、必ず定期的に本人や保護者が学校と話をするとか、状況確認するとか、そういう機会を必ず設けることになっています。
大村委員長	ありがとうございます。中学校の卒業資格は、校長先生が出しますから、必ず連絡を取るということにはなっています。
古井委員	要望なのですが、9頁「生涯スポーツを推進する」の一番下段（3）のスポーツ環境に関する「スポーツ施設のニーズに関する調査」ということで、多分市民の方にアンケートをとって、それで出てきた要望を、順次、順位づけをしているというような感じで改善されていると思うのですが、そうなのでしょうか。
甲村スポーツ課長	スポーツ施設のニーズ調査につきましては、みよし市のスポーツ課所管以外の運動施設、例えば、都市公園にあります施設、それから地域にありますコミュニティー施設、皆様が体を動かせるような施設をすべて取りまとめて、それをどういうふうに今後整備していくかという計画を昨年度策定しました。その中で、市民の皆様が、こういった要望をもたれているかを調査しました。夏にスポーツ実施アンケートでこういった施設がお望みですか、どうしていったらよいでしょうかという、そういった設問を設けました。対象としましては、無作為に1,000サンプル抽出して、回収しました。その他に、市のホームページで、何か御意見ありますかというようなものを公開し、意見を募集しています。ですので、アンケートの内容については、今後ずっとこう整備をしていくというような、中長期的なものでもありますので、随時受け付けていきます。
古井委員	三好池を使う一般市民の声として申し上げます。トイレが一つできまして、あれは非常にいいことだと思います。けれども、熱中症対策ということも含めて途中に水道がないと思います。アスレチックの公園でも水を探したのですが、近くにトイレしかないと思います。そういったことを考えると、水道場を作っていただけるとよいと思います。以上です。
甲村スポーツ課長	三好池の外周が約5km弱なのですが、転々と屋外トイレを設置させていただいております。スポーツ課がトイレの整備しているわけではなく、公園緑地課が所管しておりますので、連携を図りながら対応を検討します。運動施設を全体的にどうするかということも含め、公園緑地課と調整を図りながら、整備できるものについては整備をしていくという方向でいきたいと考えております。
杉浦委員	みよし市へのエールと質問を一つ。去年からこの会議に出させていただいて、みよし市が、教育に大変力を入れていらっしゃる自治体だとよく分かりました。まず、この会そのものがものすごく中身がありますし、形だけではなくて、市民の

	声を入れて施策を決定され、それをきちっと検証していく、PDCAサイクルをまわしていく姿勢が色濃く出ていて、本当に素晴らしいと思います。自分の住んでいる町の教育長にも昨年紹介させていただきました。みよし市に住んでいる保護者の皆様に安心してくださーいと言いたいです。 もう一つが質問です。国の教育の施策の関係で、ICTに関して、今回重点とされております。GIGAスクール構想でどこの市町でも、コロナの影響でタブレットの整備が進みました。資料でも3頁に、新規事業としてICT化、地域活用の推進ということ、それから、新たな教育の推進で、新たな学びを支えるICT教育環境の整備というのが、重点で入ってきています。ここで、素晴らしいと思うのは、ハード面だけではなくて、ソフト面の取組がきちっと入れてあることです。教材を作ること、それから個別最適化された学びの実現でタブレットを利用した授業実践をどんどん進めていこうとしていること。それから、教育実践事例集が今後つくられていくということで、現場の教員にとって本当に心強いと思います。そんな中で私が一つだけお聞きしたいのは、もうすでに、自宅学習のために子どもたちにタブレット端末が配付されているのでしょうか。資料1の中に、導入した学習用タブレットを活用というのがあります、学校教育の中での有効活用の推進は分かるのですが、家庭への持ち帰りの検証を実施するという文言がございます。家庭への持ち帰りの検証というのに大変興味がありますので、どのような形でお取り組みなのか教えていただきたいと思います。よろしくお願いします
事務局・菅田	持ち帰りについては、今年度から練習という形で実施しています。段階を踏み、子どもたちが家に帰っても、学校と同じような学習ができるように、まずは、御家庭で一緒に取り組んでいただく。そのあとは、学校の実態、学年の実態に応じて、子どもたちだけでどれくらいできるのか、この令和3年度は練習という形で持ち帰りの実施をし、その中から出た課題を市教委で捉えて、令和4年度から本格的な持ち帰りが実施できるように準備を進めていきたいと思っています。
近藤委員	文化活動のところ、資料2の10頁ですけども、私はいろんなところの地域の資料館へ行かせていただくのですが、周りの市町と比べると、みよし市の規模で今の資料館は古く、展示も古いという感想をもっていました。しかし、これから資料館の将来構想を立てていくという話が出てきていましたので、みよし市の住民としてはありがたいと思っています。みよしの子供たちが住みやすい街であること、それから、私たちはみよし市の住民だという時に、アイデンティティーとしてみよしというのはどんなところであったのか、それからどんな街なのかという、子どもたち一人一人の認識が大事だと思います。それで、やはり、見る、体験するというのは、資料館が一番大事なこれからの重要拠点、施設になると思います。サンライズと並んで、将来の子どもたちがいいなと思

村山歴史民俗資料館長 内田委員 橋本生涯学習課長 大村委員長	える資料館を造っていただきたいという意見です。計画に入ってきたので、うれしく思っています。 歴史民俗資料館村山です。御意見いただきました件につきましては、今年度から来年度にかけて、あり方検討会というものを実施しますので、その中で、資料館の今後のあり方を検討してまいりたいと思います。その検討会の中で、子どもたちの将来について、どのような体験ができるかということなど、検討してまいりたいと思います。 コロナ禍という前代未聞の災害に遭遇していて、今までこんなことなかったけれど初めてという体験がいっぱい出てきたと思います。図書館でもお話会はずっと休止中です。講演会など、なくなったのがあります。サンライズの生涯学習のもそうですが、こういうときにこそ、例えば、無料配信でお話会ができたとか、それから、無料配信で講演会ができたとか、次に、もしこういう事態になった時に「もう、できている」という準備をしていただけたらうれしいと思います。今のこの状況を生かす、次に生かすということを考えていただきたいと思います。 生涯学習推進課長の橋本です。今、委員がおっしゃられたとおり、コロナ禍のことを今後に生かしていくというのは、市全体としても考えておりますし、市民の方と直接触れ合う機会の多い我々も皆様の意見を集約して、今後に生かしていくような形で、次の計画にも盛り込んでいきたいと考えています。 多岐に渡る施策ですので、個別にありましたら事務局の方に御意見をお寄せいただければと思います。
大村委員長 事務局・山内	それでは、次第の協議事項（３）に入ります。みよし市におけるコミュニティ・スクールへの取組についてです。 事務局から説明をお願いしたいと思いますが、そのあと皆様からも御意見をいただきたいと思います。 山内と申します。昨年度からコミュニティ・スクールの担当をさせていただいております。先ほど大村先生から、次世代の学校という言葉があり、大変身の引き締まる思いをしております。いただいた立場ではありますが、毎日ここでお仕事させていただいて、わくわくしています。それはなぜかというと、やっぱり子どものためにとか、みんなのためにとか、一生懸命な人にたくさん会えるからです。それは学校であり、もちろん子どもであり、家庭であり、地域であり、市役所の中にもそういう人たちがたくさんいるということを気づかされる毎日が大変ありがたく思っております。 資料５に沿い、この活動の取組について説明いたします。 ５月２４日付と書いてありますのは、この日に、県の生涯学習課でみよし市の昨年度の取組を紹介するために作成した資料であるためです。市の教育振興基本計画にも、市長が「人育て」ということを書いておられ、教育長は、「共育」「協育」というこの言葉を、みよし市はこういうことに大変手厚いと

いうことを自分自身も感じています。

2 番目。ねらうもの。以前は、開かれた学校ということをお願いしておりましたが、もう開かれただけでは遅い。地域とともにある学校をつくっていかう、それから、学校を核とした地域づくり、つまり、地域も活性化しわくわくするような、そんなことも、この活動でねらっていきます。

「20の作戦PlusOne」が示されていますが、このすべての内容が、次世代の学校と言われるこのコミュニティ・スクール構想ではないかと思っています。

基本的な思いとして12頁。一番上の「目指す方向」。新たなことを増やすのではなく、これまで行っていることに価値づけし、繋がりをもたせ、効果を高め、持続できる活動を促す。コロナ禍だからこそできること、コロナが開けたときに、「よし」とスタートできるようなこと。様々な活動にこの思いをもって取り組んでいきたいと思っています。

戻っていただいて2頁。「3」番には、このみよし市版コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動に期待されること。①協働、②社会総がかり、③持続可能性、学校評議員委員会制度から発展させ、この三つのことを行うような組織を今、三好中学校をモデル校としてスタートしたところです。

2頁下の方について(3)。メリット、魅力ということですが、子どもにとって、それから教職員にとって、保護者にとって、地域にとって、関わるすべての人にメリットがあるような取組を目指しています。

「4」番。これまでの経緯ですが、まずはコミュニティ・スクールの立ち上げです。学校評議員制度というのは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律というもので決められ、スタートしたのですが、大分時間も経っておりますので、これを発展させる形で、まずは、学校の中のニーズにこたえるような、そういうコミュニティ・スクールの先に立ち上げました。

(2) 番、まずは市役所等、関係機関の中の教育力から、成果というか、繋がりの意味を出したらどうかと思っています。市役所にはたくさんの引き出しがあって、能力のある、意欲のある人、みよし市をよくしたいという人がたくさんいらっしゃいます。子どもの授業に、市役所とか、地域の方が連携することで、効果が生まれたという昨年度の取組について紹介したいと思います。

5頁をお願いします。取組例の5番(1)SDGsの学習。三好中学校の3年生が、SDGsの学習をしました。早速、企画政策課につないでいただいて、東海学園の先生に協力していただきました。子どもたちも勉強した以上は、街づくりに参画したということで、子どもなりにプレゼンを考えました。

例えば名古屋のような街だったり、小原村のような山奥だったりというようなことで、いろいろ街づくりを考え、それを東海学園の先生に見ていただき、大変高い評価をいただ

きました。さすが子どもだなと思ったのは、先ほど30年後というのがありましたが、山村を振興したい時に、子どもたちは「飛行場をつくろう」と言いました。飛行場なんて思いがちですが、「テニスコートの半分でもいい」と言いました。荷物運び、看護師さんと病院がいてどんどん病院まで飛んでいく。そんな夢を聞きました。話を聞いた学生が、よし、それなら学生も勉強したことを生かして子ども向けにDVDをつくろうということで、3月に寄贈していただきました。このDVDを全12小中学校に配付し、SDGs学習のきっかけになったような連携がありました。

(2) 番は、地域の人との連携、環境課さんとの連携です。「さんあーる」というスマホ用ごみ分別促進アプリの利用促進です。リサイクルステーションにポスターを張って啓発しました。700～800ぐらいで推移していた加入者が、子どもたちの啓発活動によって1,000を超えたという成果がありました。

めくっていただいて6頁(3)。足踏みスプレーを製作し、保育園へ寄贈しました。

(4) 番は、協働推進課から「みよし市民憲章」について、子どもの力を借りて啓発したいという依頼があったため、取り組んだ例です。「文書ばかり読まないよ」と子どもたちに言われ、大変担当がしょげて帰ってきたところ、子どもたちならどうするだろうと子どもに投げかけ、「動画を作ろう。BGMを入れて」と、みよし市の名所みたいなどの写真を子どもたちが撮り、絵を描きました。QRコードを読み込むと、2分半ほどの動画が流れてくるようになっています。幼い子用に保育園には、市民憲章紙芝居を作ろうというチームが現れて、それを、保育園に配るというような取組があり、市役所にも学校にも「Win Win」の関係になる、そんな取組が行われ、今、成果が表れています。

後ろに参考資料がいくつかついています。今年度は、まず取りかかりに、地域との協働ということで、学校の敷地内の草刈りを行いました。「子どものためならしょうがないな」と言って参加していただきました。8頁に写真が載っているのですが、最初は、地域のお年寄りが「よし」と言って始められたのですが、野球部や美術部の生徒が手伝いにきて、「ありがとうございます」「すごく綺麗になってうれしいです」と言われたら、最後の終わりの会の校長先生の挨拶でお年寄りから拍手がわくような活動になりました。

21頁。アンケート結果は、見ていただいたとおりです。「とても楽しかった」「交流ができてよかった」「この程度のことなら、もっと頻繁にやる」そんな意見をいただきました。他の学校の学校評議委員会に行ってこの事例を話した時に、「組織とか言われると困るが、こういうことぐらいだったらやります。先生たちは忙しいから、環境整備とかトイレ掃除ならやる」と言っていただける方もあり、大変今後の広がり

	が期待される活動になりました。 また、モデル校で栽培活動のお手伝いを募集して、面倒の見方とか教えてもらったことがありました。それから、来月ありますが、文化協会に2年生の短歌の学習でお助けをお願いできないかと言ったら、「はい」と言ってすぐにお引き受けいただきました。数人の方に授業に参加をしていただく予定です。短歌の指導の他に英語の対応を手伝ってくれる人もいましたし、SDGsを福祉実践教室にも取り入れたいという要望があり、社会福祉協議会との連携もありました。今年度もいろいろな活動が、広がりつつあることを大変うれしく、頼もしく思っております。まだ取り組み始めたところですので、皆様の御意見をたくさんいただきたいと思います。よろしく願います。
大村委員長	はい。ありがとうございます。残された時間がわずかになってきましたので、皆様全員からお話をいただくことはできませんが、御質問、御意見等いただきたいと思います。
富樫委員	まず、資料5の20頁ところで、富樫委員さんのお名前があり、参加されていることが分かるのですが、富樫委員、御意見がありましたら願います。 山内先生が一生懸命やってくださって、学校、中学校の子どもたちのためになるなら、とにかく何でもやろうという気持ちで受けました。文化協会は文化の面でいろんな人が関わってくださっているんで、これからはいろいろな依頼があれば、お引き受けすることができると思っています。 差し当たって、今、お話がありましたように、短歌部会の方へ、ほんの10分でいいからボランティアとして入っていただける方を願いますと言って願いました。これから相談して実施するのですが、7月7日からやらせていただきます。あと英語の方も、本当に人選が難しいのですが、特別支援学級に入るということでした。民生委員を経験した方などを中心に快くお引き受けいただきました。ちょうど年齢的に子育ても終わって、世の中のためになるというか、自分がどこかで皆様の目に見えなくても役に立っているという喜びを感じられるような仕事だねという感じで、ボランティアを受けていただいたという感じでおります。今後とも、そのような感じで学校の要望を主にして、活動させていただきたいと思います。私もまだまだ研修しなければいけないと思っていますので、勉強させてもらっています。以上です。
大村委員長	参加された立場からの御意見を聞かせていただき、ありがとうございます。それでは、皆様から御質問を聞きます。いかがでしょうか。おそらく、コミュニティ・スクールとか地域学校協働活動とか、それ自体が一体何なのかところから始まるだろうと思います。みよし市の取組は、中学校からスタートしているということと、それから、先ほど市役所の各課の職員、つまり、その地域、街づくりを願っている人達と中学生が出会っている、今では、非常に面白い繋がりができ

事務局・山内	ているという報告だったと思います。それが今後、他の中学校まで広がっていく、あるいは、小学校に広がっていくということが、今後の展開かなというふうに思います。
大村委員長	市の教育振興基本計画の作戦⑬では、令和3年度に中学校モデル校で、令和4年度にモデル校の学区内にある小学校でコーディネーターを選出し、コミュニティ・スクールを立ち上げる。令和5年度から、全小中学校でと予定しています。来年度から中学校3校にもと書かせていただいているのは、実は、文科省から、部活動は土日に中学校教員が行わないという方針も出されており、地域の受け皿を話し合うためにも、早めに中学校に立ち上げていくことがよいのではないかと、中学校の校長先生たちとお話をさせていただいています。可能ならば前倒して、取り組めるところは取り組んでいこうと考えています。
吉澤委員	今年度は三好中学校区ということですのでけれども、来年度以降、広がっていきますので、今年度中にその準備を進めていくというふうになるのかなと思います。御意見、御質問いかがでしょうか。 三好中学校の吉澤です。昨年度、市役所の方と協働させてもらったのがなぜなのかについてお話します。昨年度の3年生は夏の大会がありませんでした。6月から学校が始まりましたが、体育祭もできません。修学旅行も延期です。本来であれば修学旅行の総合的な学習で職業体験など、キャリア教育に関わるものを実施するはずだったのが、できませんでした。その中で、SDGsに関わる街づくりの学習をしようということで取り組んできました。この子達のやっていることが意味のあることであり、すごいことだよという活動ができないかと考えていたところ、山内先生からお話をいただきました。それなら、市役所の総合計画に入り込んだら面白いよねとか、大学の先生から評価してもらおうというのは子どもたちに学ぶ意義をもたせられることだからいいとか、そんなところからスタートしました。コーディネーターの富樫さん、久野さんを子どもたちに紹介した時に、「地域の方がみんなと一緒にこうやって活動していくんだよ。みんなの活動を広げていこう。地域に広げていこう」と話をしました。伝えたのは、「でも、ノープランなんだよ。なんでもいいよ。やってみようよ」ということです。だから、私は子どもたちがやって、失敗してもいいと思っています。誰一人取り残さないという中で案外やってしまうことが、本校でもよくあるのですが、合唱コンクールなどの行事に適応できない子が出てきてしまうということです。そうではなく、一人も取り残さないというのは、それぞれ一人一人が輝くということだと思います。そういう意味では、一人一人が地域の誰かと繋がって活躍ができればいい、多様な生徒が多様な場所で輝く。活躍できる場ができるチャンスじゃないかなと思っています。ですから、大掛かりなものをやるつもりは全然ありません。そんなことと思って

大村委員長	います。 はい。ありがとうございました。実際、今、進められている三好中学校では、進める中心が子ども達だよということも含めてお話いただけたと思います。 少し進行が不手際で、時間が過ぎてしまいました。今日は、非常にたくさんの施策やその計画の進捗状況に対する御意見いただきましたので、ぜひそれを事務局として受けとめていただいて、今年度の取組に生かしていただきたいと思います。また、今年度、新しく取り組んでいる、みよし市の学校を変えていこうとするコミュニティ・スクール、地域学校協働活動の取組等、今、最初の一步が始まっているのをみよし市全体としてそれを見つめ、自分たちの地域だったらどうなるのだろうか、生かしていけるのか、どういう学校づくりが可能であろうかということも考えていただけるような、そういった機会にしていいただければと思います。三好中学校の生徒の皆さん、また、コーディネーターの皆様を含めて、ぜひ発信していただけるとよいと思います。今年度の終わりには、それをまた共有していくことをお願いしたいと思います。 それでは、用意された議事はすべて終了しました。委員の皆様から何かございますか。 それでは進行を事務局にお返しします。
江上学校教育課長	ありがとうございました。今後の予定等について、事務局から説明させていただきます。
事務局・鈴木	事務局説明 ・ 今後の日程
江上学校教育課長	以上をもちまして、第1回みよし市教育振興基本計画推進委員会後、終了させていただきます。交通安全に気をつけてお帰りください。本日はありがとうございました。